

第280回 令和8年8月31日（月）

「いつの時代もあったこと」

2040年にはAIに仕事の半分以上が奪われると言われています。産業革命以上の変化とか、予測不可能な未来など、不安をあおるような言葉が飛び交っています。

でも実はこれはいつの時代でも起きていることなのです。

私が幼いころは町に商店街がありました。特に駅近でなくても人が集まるところにはお店が集まっていました。八百屋さん、果物屋さん、お肉屋さん、豆腐屋さんなどの食料品や、洋品店、金物屋さん、お花屋さんなどがありました。

それがスーパーマーケットによってあっという間に姿を消しました。さらに大型ショッピングモールによってスーパーマーケットも消えかかっています。もしかしたらネットショッピングに押されて大型ショッピングモールも減っていく運命にあるのかもしれない。

スマホができる前はスマホにできる機能はいろいろな販売店が担っていました。例えばカメラならカメラ屋さんがあって、フィルムを販売して、写真を現像してくれました。音楽を聴くのはレコード屋さんでレコードを買って、電気屋さんでプレイヤーを購入していました。いまのようなサブスクの動画配信はなかったので、映画を見るのはレンタルビデオ屋さん、それ以前はもちろん映画館だったわけです。

お店の人たちやスマホができたことで仕事を奪われた人は大勢いるわけです。その人たちがみな失業したのかというとそうではなく、新しくできた職場で働いていたと思われます。結局時代が変わって仕事が変わっても人間は生きていくことができていたわけです。

だからいたずらに不安に思う必要はないと思います。ただしAIやロボットが仕事を奪うということは、その仕事を人間が取り戻すことは難しいということになります。お店が無くなってスーパーで働くのとは少し違い、まったく別の分野で仕事を開拓する必要があるのかもしれない。

だからこそ探究的に考える力が必要になります。いま必要な仕事は何なのか、考えて仕事を創り出す工程が求められることになります。

仕事が無くなることはありませんし、人口は急減しますので需要は拡大すると思います。それでも短いスパンで仕事が変わることは避けられません。終身雇用が難しくなる時代ですから一生スキルを増やし続けることが大事になることは間違いないでしょう。